

日本の武道

日本の武道は我々の祖先達が生死の巔に立ったとき、民族の安全や自己の生命を防衛するための最終唯一の手段として工夫研究された術(わざ)であると同時に術(みち)であり、最小限度の抵抗方法であります。

従ってこの武の道には嘗て祖先の血潮の中に脈々として生きていた一種の荘厳な息吹き、靈妙不可思議な生命の躍動を発見すると共に、この道こそは死に徹し生に徹する窮極の探究であり修行であり、生死一如の悟りに到達し、対立のない絶対の心境を開拓するための稽古であります。

武道とスポーツの違い

修行とか稽古は道を極めるための厳粛な事上練磨であり、スポーツや遊戯娯楽のシュピール *spiel* と趣を異にしています。

この武道こそは日本人の祖先の有史以前にさかのぼる血潮と生命即ち民族の風俗・習慣・思想・伝統・信仰等の生活の中から自然発生した技であり道であるから、欧米人の生活環境の中から生まれ出たスポーツとは違うのが当然であります。それを無理に同一視することは不必要であり不見識であると思われま

修行の意義

修行の修とはつつしみ正す意で、終始一貫正しい行(みち)即ち道を以って自分自身を律することであり、行とは履み行わなければならない物の義と理を含む道のことをいうのであって、外面的な人間の行動を指すのではなく、その行動の奥に潜む内面的な道心の謂われであります。それ故、修行とは知行の蘊奥(うんのう)を極めた先哲の行った道を徹底的にこの身を以って畏れることなく、正しく履み行うことである。

武ノ道とは

日本武道では修行稽古という厳粛な事上練磨によって精神を鍛錬して技の蘊奥(うんのう)を極め、そして道に到達悟入することを一番大切な眼目としております。従って技(わざ)は道に入る門であり、術(わざ)であり、術(みち)即ち道であり、技道一如であります。

技神に入るとは技と精神との渾然一致の境地を指すものであるが、これは永年に亘る不断の修行精進の恐るべき威力の蓄積に外ならない。

この生涯の修行稽古精進を通じて、道に入り、道に率(したが)って自己完成を計るのが日本の武ノ道であります。

特定非営利活動法人 日本大道館連盟
福島県スポーツチャンバラ協会
会 長 堀 田 満